

平成23年度個別施策ヒアリング資料(優先度判定)【経済産業省】

施策番号	27015	施策名		二酸化炭素分離膜モジュール研究開発事業			
新規/継続	新規	領域	グリーン・イノベーション	国際的位置付け	世界最先端	AP施策	
競争的資金		e-Rad	○	社会還元			
施策の目的及び概要	二酸化炭素回収・貯留(CCS)技術の実用化に当たっては実施に要するコストの大部分を占めるCO2の分離・回収コストの低減が課題である。本事業では石炭ガス化発電等で発生する高い圧力を有するガスからCO2を分離できる膜技術の実用化を目指す。						
達成目標及び達成期限	2015年頃において、圧力ガスから、従来の1/3程度(1,500円/t-CO2程度)のコストでCO2を分離・回収することを可能とする。						
研究開発目標及び達成期限	2015年度に実機分離膜モジュールを開発すると同時に、当該モジュールによるCO2分離・回収コストを1,500円/t-CO2程度とする。						
23年度の研究開発目標	分離膜をプラントに適用する際に必要となる、耐乾燥性、耐熱性、耐圧性などの向上を目的とした研究開発等を実施する。						
施策の重要性	地球温暖化対策として、CCSはCO2削減効果の高い革新技术であり、我が国が温暖化対策で世界をリードするためにも、これらの技術を我が国において早期に実用化することが必要である。CCSの実用化に当たっては、実施に要するコストの大部分を占めるCO2の分離・回収コストの低減が課題となっている。本事業で開発するCO2分離膜は、高い圧力を有するガスからCO2を分離・回収するコストを、2015年頃において従来の1/3程度(1,500円/t-CO2程度)まで大幅に低減することを可能とするものであり、CCSを実用化する上で必要な技術である。						
実施体制	研究開発主体は公募により決定。						
H22予算額(百万円)				H23概算要求額(百万円)			
—				300			
独立行政法人名(運営費交付金施策のみ)							
H23概算要求額の内訳	人件費:125 ・主席研究員 2,800人時 ・主任研究員 10,450人時 ・研究員 23,600人時 ・補助員 3,840人時 機械装置費:5 委託費:63 その他:107 —						
期間	H23~H27			資金投入規模(億円)	16		
これまでの成果(継続のみ)	—						
社会情勢・技術の変化(継続の)	—						

み)			
昨年度優先度判定 (継続のみ)	—	優先度判定時の指摘 への対応(継続のみ)	—
国民との科学・技術対 話推進への対応(対象 施策のみ)	—		